

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	③ 交通安全対策の推進
			施策の小項目名	○交通安全環境の整備
主な取組	交通安全事業			
対応する主な課題	④交通死亡事故に占める飲酒絡みの死亡事故の割合が全国ワースト1位(28年)、人身事故に占める飲酒絡みの事故の割合が全国ワースト1位(28年現在、27年連続)であるなど極めて深刻な状況にある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
交通事故を防止し、安全かつ円滑・快適な交通社会を実現するため、交通安全思想の普及啓発(春・夏・秋・年末年始の交通安全運動、交通安全功労者表彰等)を行う。						
実施主体	県	交通安全思想の普及啓発(各季交通安全運動、交通安全功労者表彰等)				
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部消費・くらし安全課					
	【098-866-2187】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 交通安全運動事業費							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 各季の交通安全運動による広報活動の実施 ・交通安全功労者等表彰の開催 ・交通安全のぼり旗や反射材などの配布による広報啓発を実施	
県単等	直接実施	3,658	1,841	1,679	1,870	1,920	1,022	県単等	OR3年度： 各季の交通安全運動による広報活動の実施 ・交通安全功労者等表彰の開催 ・交通安全のぼり旗や反射材などの配布による広報啓発の実施	
予算事業名 —							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： —	
		—	—	—	—	—	—		OR3年度： —	

様式1(主な取組)

活動指標名	各季の交通安全運動実施回数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
実績値	4回	4回	4回	4回	4回	—	100.0%	1,920	順調	<p>各季(年4回)の交通安全運動、交通安全功労者等表彰(17名、5団体)を実施し広報啓発に努めた。</p> <p>高齢者の交通安全意識を高めるため、サポカー乗車体験や反射材など交通安全啓発グッズを配布した。また、のぼり旗などの啓発グッズを関係機関等に配布し、常時啓発活動に活用できるよう連携を図った。</p>		
活動指標名	—				R2年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	—	—	—	—	—	—	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果					
活動指標名	—				R2年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	—	—	—	—	—	—	<p>交通安全運動4回(各季)、交通安全功労者等表彰1回(17名、5団体)を計画的に実施した。</p> <p>交通安全思想の普及啓発に努め、対前年に比べ交通人身事故の発生件数が減少(△1,267件)した。</p>					
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和2年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・加齢により体力、判断力等が低下する高齢者の交通事故防止に向け、チラシなどによる啓発や交通安全グッズ(反射材等)の利用促進、サポカーの普及啓発など交通事故防止に向け、引き続き取り組む。 ・二輪車の交通事故防止のため、幅広い年代層に対し、二輪車の交通マナー向上に向け引き続き取り組む。 						<ul style="list-style-type: none"> ・各季の交通安全運動において、高齢者の安全な通行の確保、高齢運転者の交通事故防止を重点項目に掲げ、注意喚起を図るとともに関係機関と連携し、サポカー乗車体験や反射材などの啓発グッズを配布し、高齢者の交通事故防止を図った。 ・各季の交通安全運動において、二輪車事故防止を重点項目に掲げ、注意喚起を図るとともに、関係機関団体と連携し、のぼり旗の掲揚や啓発チラシを配布するなど二輪車事故防止を図った。 						



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 県警察、各市町村及び沖縄県交通安全推進協議会など関係機関と連携して取り組んでいるが、効果的な広報啓発手法を検討する。

○外部環境の変化

・ 本県の令和2年中の交通事故死傷者に占める二輪車乗車中の死傷者の構成率は、21.2%で全国平均11.2%の約1.9倍と高い状況にある。

・ 本県の令和2年中の高齢者が関連する人身事故の構成率は、交通人身事故2,808件中859件(30.5%)と10年前(交通人身事故6,788件中1,365件(20.1%))と増加している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 高齢者が関連する交通事故防止に向け、関係機関団体等と連携し広報啓発活動を継続する必要がある。
- ・ 二輪車の交通事故死傷者が高い原因として、速度超過などの道路交通法違反が挙げられることから引き続き、幅広い年代に対し二輪車のマナー向上について広報啓発を継続する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 加齢により体力、判断力等が低下する高齢者の交通事故防止に向けチラシによる啓発や、交通安全グッズ(反射材等)の利用促進、サポカーの普及啓発など交通事故防止に向け引き続き取り組む。
- ・ 二輪車の交通事故防止のため、幅広い年代層に対し、二輪車の交通マナー向上に向け引き続き取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	③ 交通安全対策の推進
			施策の小項目名	○飲酒運転根絶に向けた社会づくり
主な取組	飲酒運転根絶推進事業			
対応する主な課題	④交通死亡事故に占める飲酒絡みの死亡事故の割合が全国ワースト1位(28年)、人身事故に占める飲酒絡みの事故の割合が全国ワースト1位(28年現在、27年連続)であるなど極めて深刻な状況にある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
飲酒絡みの交通事故を防止するため、飲酒運転根絶の各種広報啓発活動(講演会、パネル展、マスコミ活用広報啓発)を実施する。		4回				
		広報啓発活動開催回数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部消費・くらし安全課 【098-866-2187】					
		飲酒運転根絶にかかる各種広報啓発活動(講演会、キャンペーン、パネル展、マスコミ活用広報啓発)				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 飲酒運転のない社会環境づくり事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度: 飲酒運転根絶ラジオCMの制作・放送 各季の交通安全運動、メディア等を活用した広報啓発活動	
県単等	直接実施	7,343	9,325	6,699	6,933	6,066	6,279	県単等	OR3年度: 飲酒運転根絶県民大会の開催 飲酒運転根絶ラジオCMの制作・放送 各季の交通安全運動、メディア等を活用した広報啓発活動	
予算事業名 —							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度: —	
		—	—	—	—	—	—		OR3年度: —	

様式1(主な取組)

活動指標名	広報啓発活動開催回数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	4回	4回	4回	4回	4回	4回	100.0%	6,066	順調	「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づき、各季の交通安全運動における広報啓発、高校生によるラジオCMの制作放送、飲酒運転根絶ロゴマークを活用した大型ビジョンによる広報啓発活動などを実施した。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—				令和2年度は、計画値4回に対し4回実施しており順調であった。 飲酒運転根絶に係るパネル展、大型ビジョンを活用した広報啓発など関係機関と連携した街頭活動などを実施した。 本年度は、対前年に比べ飲酒絡みの人身事故件数が減少(△48件)した。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒運転の根絶について、高校生等がメッセージを発信する取組等が親世代への波及効果も期待できるため、飲酒運転根絶ラジオCM放送を引き続き実施し若い世代から飲酒運転の根絶に対する意識向上を図る。 ・二日酔い運転防止の注意喚起やアルコールが体内で分解される時間などについて広報啓発する。 ・平成28年度に制定した飲酒運転根絶ロゴマークを広く活用するなどし、飲酒運転根絶に向けた県民意識の向上を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒運転根絶ラジオCMを高校生によるナレーションで制作・放送することで県民に対し、飲酒運転の危険性、悪質性に対する周知を図ることができた。 ・警察や交通ボランティアなど関係機関団体などと連携し、飲酒運転の根絶を呼びかけるチラシ配布や街頭活動などを実施した。 ・夏場の飲酒運転根絶対策として、市町村と連携しビーチでの飲酒運転根絶を呼びかけるのぼり旗の掲揚や公共施設での飲酒運転根絶パネル展を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 沖縄県交通安全推進協議会推進機関・団体などと飲酒運転の根絶に向けた取組の継続が必要である。

○外部環境の変化

・ 県警察が令和2年中、飲酒運転で検挙された者へのアンケート結果では、61.0%が「飲酒后、車を運転するつもりだった」と回答するなど確信的に飲酒運転をする者が未だ多数存在すると考えられる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 飲酒運転で検挙された者へのアンケート結果で多数の者が飲酒後も運転するつもりだったという結果が出ており、これら規範意識の低い層への対応を図る必要がある。

・ 飲酒運転で検挙された者へのアンケート結果で出勤時間帯に約3割の者が検挙されていることから、二日酔い運転に対する注意喚起を図る必要がある。

・ 運転免許を取得する年代である高校生に対する取組を実施することで、飲酒運転の根絶に向け高校生自身及び親世代への規範意識の向上を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 高校生が、飲酒運転の根絶メッセージを発信することで親世代への波及効果も期待できるため、飲酒運転根絶ラジオCM放送を引き続き実施し若い世代から飲酒運転の根絶に対する意識向上を図る。

・ 二日酔い運転防止の注意喚起やアルコールが体内で分解される時間などについて、引き続き広報啓発する。

・ 平成28年度に制定した飲酒運転根絶ロゴマークを広く活用するなどし、飲酒運転根絶に向けた県民意識の向上を図る。